

多文化環境下における価値の交渉

——イスラームとの共生に向けた発展的研究



アブダビの高層ビル群



エクスカーショで訪れたシェイクザイドモスク



会場となったニューヨーク大学アブダビ校

アブダビでの国際セミナー

福田 安志

早稲田大学イスラーム地域研究機構
上級研究員

早稲田大学イスラーム地域研究機構では、ニューヨーク大学アブダビ校（NYU AD）、マラーヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院（AEI）との共催で、アラブ首長国連邦の首都アブダビのNYU ADにおいて、二〇一五年十一月一日から三日までの三日間にわたり、国際セミナーを開催した。

イスラーム地域研究機構では、二〇一四年度より日本学術振興会の補助を得て国際的な共同研究「多文化環境下における価値の交渉——イスラームとの共生に向けた発展的研究」（英文名：Negotiating Values in Multicultural Circumstances: Toward the Symbiosis from Islamic Area Studies）を実施している。共同研究は、当機構とマラーヤのマラーヤ大学アジア・ヨーロッパ研究

院、アラブ首長国連邦のニューヨーク大学アブダビ校人文学部の三機関を中心にして三か年計画で実施しており、初年度の二〇一四年には、マラーヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院において三機関の共催で国際セミナーを開催した。二年度目となる二〇一五年は場所をアブダビのNYU ADに移し国際セミナーを開催したものである。

今回の国際セミナーは「Islam in Global Perspective」のタイトルで開催され、イスラームと共生をめぐる様々なトピックについて報告と討議が行われた。国際セミナーには、これまでの共同研究を担ってきた早稲田大学、NYU AD、マラーヤ大学の研究者たちが参加するとともに、NYU ADがマッチングファンドを用意して欧米諸国などから多くの研究者を招聘したため、五五名ほどの研究者が集い、活発な議論が行われ盛会となった。

NYU ADのキャンパスはアブダビの中心地からは少し離れたサイディヤート島にある。同島は現在開発途上でNYU ADのキャンパスは広大な砂漠に取り巻かれている。緑に包まれたマラーヤ大学で開催された二〇一四年の国際セミナーとは様変わりであった。毎朝、宿泊のホテルからバスでキャンパスに向かった。ホテルから大学までは二〇—三〇分、橋を渡ってサイディヤート島にはいると、左手に建設中のパリのルーブル美術館のドーム型のアブダビ分館の姿が目に見え込んでくる。石油の富で潤っているアブダビはインフラ建設などの

開発事業から、教育・文化へと開発の重点を移しているところである。

国際セミナーの初日は九時過ぎに始まった。はじめに、早稲田大学イスラーム地域研究機構の桜井啓子機構長から国際セミナーの開催に際しての挨拶があり、ホスト校であるNYUAD人文科学部の学部長であるRobert Young氏からも会議の開催を歓迎する旨の挨拶があった。その後、パネルでの発表が始まった。

各パネルはそれぞれ三名前後の報告者で構成されていたが、最初の日には四つのパネルが組織されていた。パネルのタイトルを紹介すると、次のようになっている。

- ・ Displacement and Memory in Transnational Perspectives,
- ・ Globalization of Religious Norms and Practices: Halal Food,
- ・ Discourses on Women, Multiculturalism & Islam: Global Comparative Analyses,
- ・ Migration and Transnational Social Spaces,

- ・ The Center Does Not Hold: The 'Local' and the 'Vernacular' as a Problem of Global Islamic Studies (Roundtable),
- ・ Educational and Bureaucracy Reforms under Imperial Rules at the Dawn of the Modern Era: Case Studies of the Ottoman Empire, the Qin Dynasty and Iran,
- ・ Narratives of Global Islam in Historical Perspective,
- ・ The Dynamics of Multiculturalism



会議の様子

- ・ History of Multicultural Environment in Port-cities around the Indian Ocean: Negotiating Values on Shelter,
- ・ Translation as Intellectual Conversation: Talking Reform Across Linguistic Borders in the Eastern Mediterranean,
- ・ State, Society and Multiculturalism.

以上のように三日間で合計して二一のパネルが持たれ多数の研究発表が行われた。共同研究は二年目に入り、活発な討議を通し研究者相互の理解も深まり、懇親会など

も設けられ、三拠点間の交流も一層進むこととなった。国際セミナーには日本からは若手研究者も参加し、共同研究・研究交流の成果を次の世代に引き継いでいく点で大きな意義があった。早稲田大学で開催される来年の国際セミナーにつながる大きな成果を得ることができた。

今回の国際セミナーでは、準備段階から、NYUADの教員と関係者の方々の多大の尽力で成功したものである。この場を



歓迎レセプションにて



大隈像前で記念撮影

借りて、あらためて感謝を述べたい。

東京での打合せ会議&若手研究者報告会

秋山 徹

早稲田大学イスラーム地域研究機構
研究助手

年が明けて二〇一六年一月二三日、早稲田大学において、来年度に同大学を会場として開催予定の国際セミナーのための打合せ会議が開催された。会議には、前述三拠点（NYUAD、AEI、早稲田大）の関係スタッフ合計十三名が集い、来る国際セミナーのメインテーマを皮切りに、セッション構成に至るまで、活発な議論が交わされた。

大学近隣のカレー店でのランチを挟んで、午後からは日本人若手研究者による、研究発表会が開催された（使用言語は英語）。発表者と発表タイトルは以下の通りである。

- ・ Masayo Watanabe (The University of Tokyo)
“The Concept of Quantity in Arabic Sciences”
- ・ Yuko Sugimoto (Waseda University)
“Criticisms of the Ottoman Government Appearing in Periodicals Edited by al-Kawakibi”
- ・ Ryosuke Ono (Keio University)

“Abdurestif Ibrahim's Final Years in Tokyo (1938-1944): The Ungodly Japanese Intention to Make Him an Islamic Saint”

右記の三報告に対し、海外からのゲストたちを含むフロアからは数多くの質問やコメントが寄せられ、本事業の主要な柱のひとつである、若手研究者の育成と国際的交流において資する会となった。英語での報告と質疑・応答は、日本人研究者の苦手とするところだが、上述三名の発表者たちがそれを上手にクリアしていた点が印象的であった。総じて、午前中の打合せ会議と午後の研究発表会を通して、来る国際セミナーに向けた良いスタートが切れたように感じた。なお、来年度の国際セミナーは一二月中旬開催予定である。最終年度に相応しい実り多い会議となるよう、スタッフ一丸となって取り組んでゆきたい。

最後に、会議当日、東京は小雪がちらつく底冷えのする天気であった。そうしたなか、遠路はるばるご参加下さったNYUADとAEIの皆さまに厚く御礼申し上げます。